

会 長 挨拶

平素より本会運営につきまして、関係各位並びに会員の皆様には多大なるご理解・ご支援を頂いておりますことに対し厚く御礼申し上げます。

本年５月に開催された通常総会において日高前会長より会長職を引き継ぎました佐藤と申します。日高前会長におかれましては１０年間という非常に長い間我々業界を牽引いただき私達にその道を示していただきました。１０年の間には木質バイオマス発電の開始、原木輸出の大規模化、コロナ禍のパンデミックによる国内需要の減退とコロナ後のウッドショックなど大きな情勢変化に対応を迫られ大変なご苦労があった事とお察しいたします。本会を代表して改めて感謝申し上げます。

私は現在、秋田県素材生産流通協同組合の理事長及び（有）秋田グリーンサービス代表取締役を務めておりますが、団体の長としてはまだまだ経験が乏しく、また年齢もまだ５１歳という事で社会経験も十分とは言えないと自覚しております。そのような自分が前会長のように本会運営を行う事が出来るか一抹の不安に駆られるところでありますが、託された以上、業界、会員の皆様の商業発展のため尽力していきたいと心しております故、皆様からのご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

近年、戦争という非常に愚かな行為により国際情勢が不安定になり様々な影響を世界的に与えています。この戦争は世界の中であって「国」対「国」なのか「個人」対「国」なのか、はたまた「個人」対「個人」なのか計り知れないところではありますが、一つ確実な事はこの戦争という破壊行為は人命を奪い、施設や資源を破壊し、人々の生活、営みを奪いとるだけでなく、大量の武器を生産・使用するため確実にCO₂排出を加速させる環境破壊活動であると言えます。おそらくこの戦争の当事者は環境への配慮など考える事はないのかもしれませんが、世界の多くの国が地球規模で環境の改善に取り組む中でこれはとても大きな損失とも言えます。

他国の出来事にもかかわらず、様々な形で私達の商業の中にも影響を受けておりますが、私達の業界としては自国の森林を適切に運営していくことが日本そして世界の環境に貢献していく事であると思います。我が国も戦争により多くを失い、森林も同時に失くした過去がありますが、戦後の大植林を経て多くの人工林が伐期を迎える「転機」と言える今、本会がなすべき事は、まずは会員全てにおいて現状に即した、そして未来にむけた適切かつ責任ある施業を行う事であると考えます。そのうえで社会においての我々の価値・森林の価値を団体として訴えていく事と考えております。

小さな声ではなかなか伝わらない事も大きな声で叫び続ければ変わる未来もあると信じておりますが、全国において本会会員は 17 道県（17 団体）の加盟にとどまっており、団体として本会運営の意義をさらに強く推し進めるためには真に全国に加盟団体があるべきと考えます。

地域ごとの事情はございますが全国から加盟いただける団体となるよう本会の運営に努めて参りたいと思いますので、関係各位並びに会員の皆様からは引き続きのご指導・ご鞭撻をお願いする次第であります。

令和 8 年 8 月

全国素材生産業協同組合連合会

会長 佐藤 総栄